



東京大学附属図書館概要 2013 / 2014



東京大学附属図書館長

古 田 元 夫

社会が大きな変化の時期を迎えている今、大学には、未来への確かな指針を示す学術研究と、未来の社会を担うべき優れた人材の育成が強く期待されています。これらの教育研究活動において、学術情報が必要不可欠であることは言うまでもありません。世に情報が溢れているだけ、良質な学術情報の持つ意味は、より大切になっています。大学図書館は、この良質な学術情報を収集・保存し、安定的に提供する役割を有し、学生・教職員へのサービス機関として、大学における学術情報の重要な基盤を構成しています。

学術情報をとり巻く環境にも変革の波が押し寄せている時代に、大学図書館は、これまで果たしてきた学術情報の収集・保存・提供サービス機能を高度化すると同時に、新たに情報発信・アクセス・活用サービス機能をも含めた総合的な機能を実現することを求められています。

そのような時代の要請に応え、東京大学附属図書館は、電子媒体と紙媒体それぞれについて安定的な学術情報基盤形成を図るため、学術雑誌・電子ジャーナル等購入経費の全学共通経費化を実現し、また、学習・教育に資する学生用図書の実用にも努めています。さらに、東京大学で創出される世界水準の研究成果を国際的に発信・流通させ社会に還元するための拠点として、学術機関リポジトリ「UT Repository」の構築、拡充にも力を入れています。

同時に、東京大学創立以来130年余にわたって蓄積されてきた貴重な人類の知的財産を後世に継承するという図書館の使命を果たすため、柏図書館の自動化書庫導入による自然科学系学術雑誌バックナンバーセンターの設置や、全学に存在する貴重書コレクションの保存・管理環境の整備を進めているところです。

また、図書館機能の高度化と、文献・資料の安全な保存、有効な活用を図るため、東京大学新図書館構想を発足させ、本郷キャンパスにおける大規模自動化書庫の導入と、新時代の図書館サービスの実現に向けた準備を進めています。皆様からのご支援を力に、今後の計画の推進に尽力してまいります。

これら多くの取り組みを主体的かつ機動的に推進するためには、キャンパス拠点図書館である総合図書館、駒場図書館、柏図書館と、様々な学問分野を基礎とする32の各学部・研究所図書館・室が「共働する一つのシステム」として有機的な連携・協力をより一層強くしていかなければなりません。

東京大学附属図書館は、「世界を担う知の拠点」たるべき東京大学の学術情報基盤を充実させるため不断の努力を重ねることにより、さらに魅力ある図書館へと進化していこうと決意しております。利用者の皆様には、今後とも積極的に附属図書館を活用していただくとともに、忌憚のないご意見をお寄せくださるよう心からお願い申し上げます。

歴代館長

末岡 精一	文学部準講師	1881. 8. 5 ~
田中 稻城	文学部準講師	1882. 3. 4 ~1882. 7. 22
谷田部 梅吉	理学士	1882. 7. 22 ~1883. 12. 11
松井 直吉	理学部教授	1883. 12. 13 ~1885. 11
木下 廣次	法科大学教授	1886. 3. 9 ~1889. 10. 23
宮崎 道三郎	法科大学教授	1889. 10. 23 ~1890. 3. 24
田中 稻城	文科大学教授	1890. 3. 24 ~1893. 9. 6
和田 萬吉	文科大学教授	1893. 11. 7 ~1923. 11. 29
姉崎 正治	文学部教授	1923. 11. 29 ~1934. 3. 30
高柳 賢三	法学部教授	1934. 3. 31 ~1940. 6. 14
市河 三喜	文学部教授	1940. 6. 15 ~1946. 10. 4
高木 八尺	法学部教授	1946. 10. 5 ~1950. 3. 30
高木 貞二	文学部教授	1950. 3. 31 ~1953. 4. 9
末延 三次	法学部教授	1953. 4. 10 ~1960. 3. 31
岸本 英夫	文学部教授	1960. 4. 1 ~1964. 1. 25
伊藤 四十二	薬学部教授	1964. 1. 26 ~1969. 3. 31
松田 智雄	経済学部教授	1969. 4. 1 ~1972. 3. 31
今井 功	理学部教授	1972. 4. 1 ~1975. 3. 31
安藤 良雄	経済学部教授	1975. 4. 1 ~1978. 3. 31
藤原 鎮男	理学部教授	1978. 4. 1 ~1981. 3. 31
裏田 武夫	教育学部教授	1981. 4. 1 ~1985. 3. 31
山崎 弘郎	工学部教授	1985. 4. 1 ~1988. 3. 31
黒田 晴雄	理学部教授	1988. 4. 1 ~1991. 3. 31
清水 忠雄	理学部教授	1991. 4. 1 ~1994. 3. 31
開原 成允	医学部教授	1994. 4. 1 ~1996. 3. 31
六本 佳平	大学院法学政治学研究科教授	1996. 4. 1 ~1999. 3. 31
落合 卓四郎	大学院数理科学研究科教授	1999. 4. 1 ~2002. 3. 31
廣渡 清吾	副学長・社会科学研究所教授	2002. 4. 1 ~2003. 3. 31
小宮山 宏	理事（副学長）・大学院工学系研究科教授	2003. 4. 1 ~2005. 3. 31
西郷 和彦	大学院工学系研究科教授	2005. 4. 1 ~2009. 3. 31
古田 元夫	大学院総合文化研究科教授	2009. 4. 1 ~



明治期の附属図書館



再建当時の総合図書館



現在の総合図書館

東京大学は、東京大学附属図書館を、学習、教育及び研究のために不可欠な全学組織として設置し、人類の知的遺産の収集、保存、整理及び新たに創出される学知の世界への発信の拠点とする。

この務めを果たすべく、東京大学附属図書館は、本学における学習、教育及び研究活動を支える学術情報基盤としての役割を担うとともに、わが国における学知の収集、保存及び発信の中心の一つとして、全国の学術研究基盤の充実に貢献し、更に国際的な連携・協力のセンターとして、世界の学術機関との学術情報交流を行なうことにより、世界の学術コミュニティに奉仕する。

東京大学附属図書館の使命

1. 東京大学附属図書館は、学習支援機能、研究支援機能及び保存機能を併せ持つ。総合図書館、駒場図書館、柏図書館は、本学の全ての学生に対して学習、総合的教養修得及び知的人格形成の場を提供し、もって各キャンパスにおける学習支援機能の中心的な担い手となる。部局図書館は、主に、本学における研究を支援するとともに、各部局の特性に応じて学習支援機能をも担う。
2. 東京大学附属図書館は、本学における学習、教育及び研究の発展のために必要な各種の学術情報を収集、保存、整理し、資料の性質に応じて可能な限り広く本学内外の利用に供するとともに、所蔵する人類の貴重な知的遺産を責任をもって次の世代に伝える。
3. 東京大学附属図書館は、本学の全ての学生に対し、学習及び教養修得のために必要な各種の学術情報を提供し、それを有効に活用しうるための施設、設備、スタッフ及び情報を整備する。
4. 東京大学附属図書館は、増大する世界の学術情報を本学の全ての構成員が共有し、有効に活用しうるよう、専門的能力の向上及び情報システムの高度化のために不断の努力を行なう。
5. 東京大学附属図書館は、蓄積された各種の学術情報と、それを有効に活用するための専門的知識を、適切な形で国内外に向けて発信する。



総合図書館洋雑誌閲覧室

東京大学附属図書館基本規則

平成16年4月1日 役員会議決(東大規則第142号)

(目的)

第1条 この規則は、東京大学基本組織規則に定めのあるもののほか、「共働する一つのシステム」としての附属図書館が、その図書館機能の有効な活用と発展を図ることにより、大学における研究及び教育に対する使命を十分に果せるようにするため、その性格と組織に関し必要な基本的事項を定めることを目的とする。

(附属図書館)

第2条 附属図書館は、次の図書館からなる。

- (1) 総合図書館
- (2) 駒場図書館
- (3) 柏図書館
- (4) 部局図書館

(商議会の議)

第3条 附属図書館に関する重要事項については、東京大学図書行政商議会(以下「商議会」という。)の議を経るものとする。

- 2 商議会は、審議の一部を附属図書館運営委員会(以下「運営委員会」という。)に委任することができる。
- 3 商議会の組織及び運営については、別に定める。

(附属図書館長)

第4条 附属図書館長の任期は、3年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 附属図書館長は、東京大学附属図書館に属する図書館資料の効果的な利用のための総合的運用の任にあたる。
- 3 附属図書館長は、総合図書館、駒場図書館、柏図書館を掌理する。

(附属図書館副館長)

第4条の2 附属図書館に、附属図書館副館長(以下「副館長」という。)1名を置く。

- 2 副館長は、本学の教職員のうちから、附属図書館長が指名する。
- 3 副館長の任期は、指名した附属図書館長の在任期間を超えないものとする。ただし、再任を妨げない。
- 4 副館長は、附属図書館長を補佐し、附属図書館長に事故があるときは、その職務を代行する。

(附属図書館運営委員会)

第5条 附属図書館の管理運営について審議するため、附属図書館長の下に運営委員会を置く。

- 2 運営委員会の構成及び運営については、別に定める。

(総合図書館)

第6条 本郷キャンパスに、総合図書館を置く。

- 2 総合図書館に、館長を置く。

- 3 前項の館長は、附属図書館長がこれを兼ねる。

- 4 前2項のほか、総合図書館の組織及び運営については、別に定める。

(駒場図書館)

第7条 駒場キャンパスに、駒場図書館を置く。

- 2 駒場図書館に、館長を置く。
- 3 前項のほか、駒場図書館の組織及び運営については、別に定める。

(柏図書館)

第8条 柏キャンパスに、柏図書館を置く。

- 2 柏図書館に、館長を置く。
- 3 前項のほか、柏図書館の組織及び運営については、別に定める。

(部局図書館)

第9条 教育研究部局または全学センター(以下「教育研究部局等」という。)に置かれている図書館のうち、附属図書館に属するものを、部局図書館とする。

- 2 総長は、1若しくは2以上の教育研究部局等、教育研究部局等附属の1若しくは2以上の教育施設、研究施設、又は1若しくは2以上の学科、教室に置かれている図書館を、その属する教育研究部局等の申し出により、商議会の議を経て部局図書館とすることができる。
- 3 総長は、前項に準ずる手続により、2以上の部局図書館を統合し、又は部局図書館を廃止することができる。
- 4 部局図書館の管理及び運営は、当該教育研究部局等がその定めるところによりこれを行う。

(図書館相互の協力)

第10条 総合図書館、駒場図書館、柏図書館及び部局図書館との間、並びに各部局図書館相互の間では、図書館資料の運用について協力するものとする。

(規則の改廃)

第11条 この規則の改廃は、教育研究評議会の審議を経て、これを行う。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 東京大学附属図書館基本規則(昭和38年9月17日制定)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

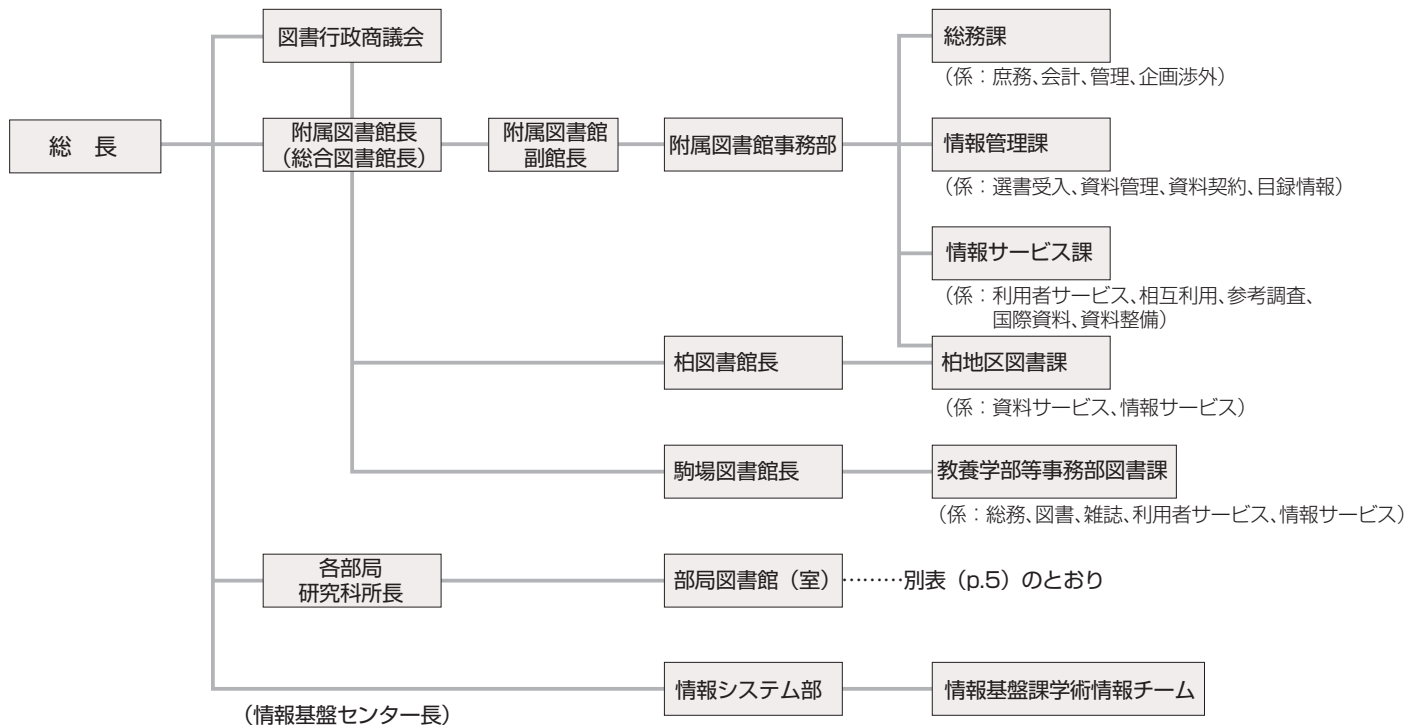
この規則は、平成24年4月1日から施行する。

東京大学附属図書館とは

東京大学には、本郷キャンパスの総合図書館、駒場キャンパスの駒場図書館、柏キャンパスの柏図書館のほか、32の部局図書館・室があります。これらを総称して、東京大学附属図書館と呼んでいます。

附属図書館は多彩な図書館・室から構成されていますが、「共働する一つのシステム」として、大学における研究及び教育活動をサポートしています。

附属図書館 組織図



東京大学キャンパス配置図

- ① 本郷地区
- ② 駒場地区
- ③ 柏地区
- ④ 白金地区
- ⑤ 中野地区



部局図書館・室一覧

本郷地区キャンパス

大学院法学政治学研究科・法学部研究室図書室
大学院法学政治学研究科
附属近代日本法政史料センター（明治新聞雑誌文庫）
医学図書館

工学・情報理工学図書館

工1号館図書室A（社会基盤学）

工1号館図書室B（建築学）

工2号館図書室（機械系、精密工学、電気系、原子力国際、原子力、
バイオエンジニアリング、システム創成学、総合研究機構）

工3号館図書室（技術経営戦略学、システム創成学）

工4号館図書室A（システム創成学）

工4号館図書室B（マテリアル工学）

工5号館図書室（化学・生命科学）

工6号館図書室（物理工学、計数工学、数理情報学、システム情報学、
創造情報学）

工7号館図書室（航空宇宙工学）

工14号館図書室（都市工学）

理7号館図書室（コンピュータ科学）

大学院人文社会系研究科・文学部図書室

大学院理学系研究科・理学部図書室

物理学図書室

天文学図書室

地球惑星科学専攻図書室

化学図書室

生物化学図書室

生物学科図書室

農学生命科学図書館

経済学図書館

大学院教育学研究科・教育学部図書室

薬学図書館

大学院情報学環・学際情報学府図書室

大学院情報学環附属社会情報研究資料センター

地震研究所図書室

東洋文化研究所図書室

社会科学研究所図書室

史料編纂所図書室

総合研究博物館図書室

駒場地区キャンパス

【駒場Ⅰキャンパス】

大学院総合文化研究科図書室
大学院総合文化研究科自然科学図書室
大学院総合文化研究科附属グローバル地域研究機構図書室
大学院数理科学研究科図書室

【駒場Ⅱキャンパス】

生産技術研究所図書室
先端科学技術研究センター図書室

白金地区キャンパス

医科学研究所図書室

柏地区キャンパス

宇宙線研究所図書室
物性研究所図書室
大気海洋研究所図書室



物性研究所図書室

附属図書館活動紹介 ～学習・教育・研究支援～

「知の宝庫」－ 学術研究情報基盤の充実

東京大学附属図書館は、全体として900万冊以上の図書と約16万種類の雑誌を所蔵する「知の宝庫」です。歴史的に貴重なコレクションから最新の資料まで、また、学習用の教養書から研究用の専門書まで幅広く所蔵しており、35ある図書館・室はそれぞれ各学部・研究所の特色等を反映した個性豊かな蔵書を提供しています。

また、東京大学の学習・教育・研究に不可欠な学術雑誌、電子ジャーナル、各種データベースを安定的に維持するため、全学共通経費による整備を進め、学術研究情報基盤の一層の充実をはかっています。

電子的資料の提供

東京大学では現在約2万タイトル以上の電子ジャーナルの他、各種データベースや電子書籍を提供しています。教職員および学生は、電子的資料の一部をSSL-VPN Gatewayサービスを通じて自宅や出張先など学外からも利用することができます。

また、東京大学で利用できる電子的資料を横断的に検索し、簡単な手順で学術論文を探すことのできるサービス「UT Article Search」と、データベース等の検索結果から論文本文の入手へナビゲートするサービス「UT Article Link」を導入し、求める文献に、より効率的にアクセスできる環境の整備を進めています。

The image displays two screenshots of the University of Tokyo's digital services. The left screenshot shows the 'University of Tokyo Article Search' interface, featuring a search bar, navigation tabs for 'Basic Search' and 'Advanced Search', and a list of database categories such as 'Academic Search Complete', 'Access Medicine', and 'ASCI Digital Library'. The right screenshot shows the 'University of Tokyo Article Link' interface, displaying search criteria for an article titled 'Defining, Navigating, and Negotiating Success' by Kater, Adina, from the 'Journal of general internal medicine'. It includes details like ISSN (0894-8734), Date (2006/09/01), Volume (21), Issue (3), and Page (926). Below this, it lists '電子ジャーナルへのリンク/ Full Text via Online' with links to various databases like 'Scopus Online Journals Complete', 'Ezra Medical Journals', and 'PubMed Central'. At the bottom, there are links for 'Additional Options for finding Full Text' and 'Contact information'.

留学生向けサービスの充実

東京大学は留学生の受入れを積極的に進めており、附属図書館はそれに対応して、留学生向けサービスの充実にも努めています。

留学生用図書、新聞等の充実はもちろんのこと、図書館ガイド、利用案内等各種印刷物の英文版を作成するほか、各研究科の留学生オリエンテーションと連携した留学生向け図書館ガイダンスを行ない、留学生に対する学習・教育・研究支援の推進に取り組んでいます。

附属図書館活動紹介 ～情報の発信～

東京大学の“知”世界へ発信 東京大学学術機関リポジトリ (UT Repository)

附属図書館と情報システム部情報基盤課は、「東京大学学術機関リポジトリ (UT Repository)」を公開し、サービスを提供しています。これは、東京大学で生産された様々な研究成果を電子的な形態で集中的に蓄積・保存し、学内外に公開するためのインターネット上の発信拠点です。

本学で生み出される世界水準の研究成果の国際的な流通、研究成果の可視性と速報性の向上、知識群のオープンアクセス化、さらに学術と社会の交差を図りつつ、国際的な学術交流に寄与することを目的として、システムの整備、コンテンツの拡充を進めています。収録コンテンツは、学術雑誌論文(770)、学位論文(3,661)、紀要(21,945)、研究調査報告書(663)、レポート類(939)等です(括弧内は平成25年2月1日現在の収録件数)。



アジア古籍電子図書館

東洋文化研究所では、アジア古籍全文データベースのゲートウェイとなる「アジア古籍電子図書館」を公開しています。漢籍善本全文影像資料庫、アラビア語写本ダイバーコレクション、サンスクリット語写本、明代図像資料三才圖會、雙紅堂文庫の各データベースを利用することができます。

<http://imglib.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

医学図書館デジタル史料室

医学図書館史料室が所蔵する貴重書の一部について、「医学図書館デジタル史料室」としてWebサイト上で公開しています。

<http://www.lib.m.u-tokyo.ac.jp/digital/index.html>

鷗外文庫書入本画像データベース

総合図書館では、森鷗外の旧蔵書コレクション「鷗外文庫」の目録入力と画像データベースを作成し、情報システム部情報基盤課の協力のもと「鷗外文庫書入本画像データベース」として公開しています。

<http://rarebook.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ogai/index.html>

このほかにも多くの資料が電子化・公開されており、以下の URL から閲覧可能です。
<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/guide/coll/index.html>

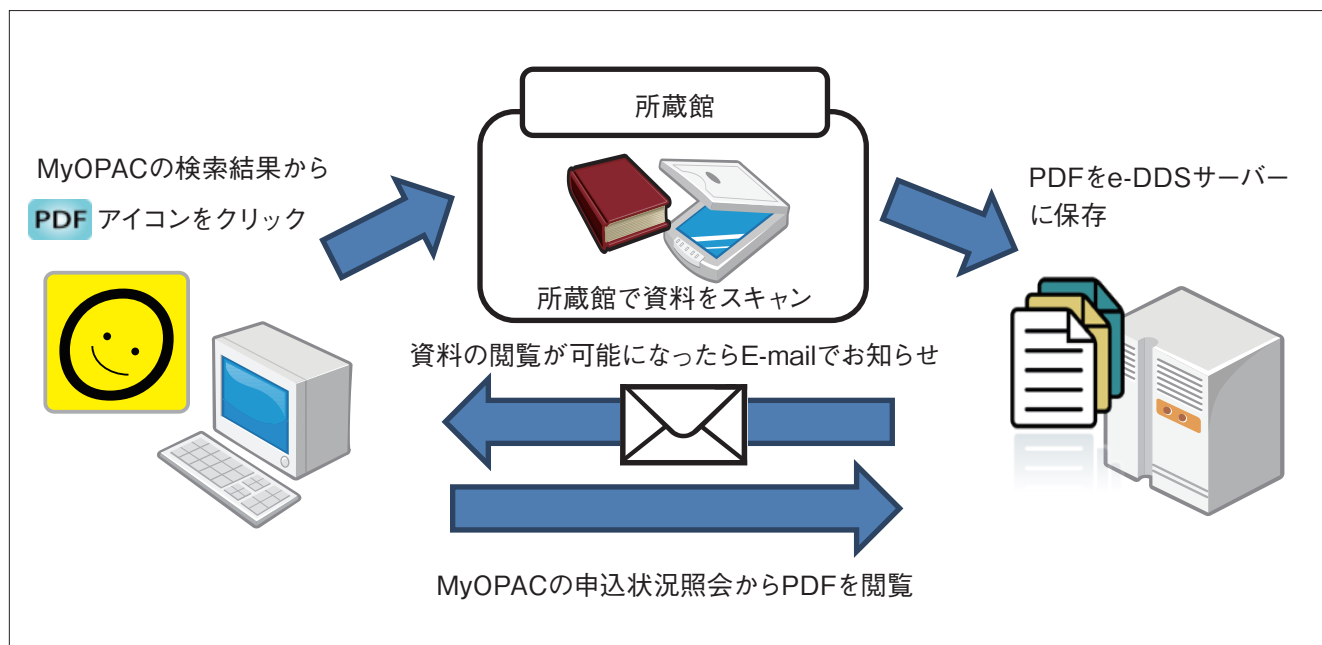
附属図書館活動紹介 ～サービスの展開～

MyOPACサービス

東京大学附属図書館で利用できるオンライン・サービスをまとめた、個人専用のサービスの入り口として、MyOPACサービスを提供しています。主なサービスに、貸出・予約状況照会、学内・学外からの文献の取り寄せ、図書の購入希望等があります。文献の取り寄せには、オンラインでアクセスするPDFの閲覧と、紙のコピー及び図書の現物の配送があります。

●PDFの閲覧（e-DDSサービス）

MyOPACの検索結果で「PDF」のアイコンが表示される資料について、文献複写の申し込みから閲覧までを、Web上で簡単に行うことのできるe-DDS（Electronic Document Delivery System & Services）サービスを実施しています。従来の紙のコピーを取り寄せる方式に比べ、スムーズかつ迅速に必要な文献が入手できます。



●コピーの取寄せ、現物貸借

附属図書館では、学内外の図書館・室に所蔵されている資料の取寄せサービスを行っており、MyOPACを通してオンラインで申込をすることができます。学内所蔵資料のコピー取寄せについては、公費払いの場合、送付先を研究室宛にすることが可能です。

ASK サービス

ASKサービスとは、参考調査質問をWebから申し込み、その回答をメールで得られるオンラインレファレンスサービスです。過去の質問、回答はデータベースに蓄積、公開されておりキーワード検索が可能です。

<https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ask/>

附属図書館活動紹介 ～広報活動～

附属図書館ホームページ

附属図書館のホームページでは、トップページにOPAC（蔵書検索）の検索窓を表示し、「図書館を使う」「本や雑誌を探す」などの目的別メニューを設け、図書館が提供する多種多様なサービスやコンテンツに、的確にナビゲートする工夫を施しています。



<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>

広報刊行物



●図書館利用ガイド（和・英）

附属図書館およびインターネット上の学術情報へのアクセスをスムーズかつスマートに行い、快適な学習・研究活動を送ってもらうためのガイドブックです。

●図書館の窓

「図書館の窓」は、附属図書館が提供するサービスやイベントなどを案内するニュースレターです。学内の図書館・室や各門のゲート等で配布しています。



展示会

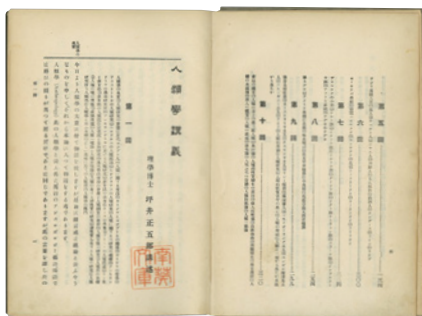
附属図書館では、東京大学で所蔵する多彩な資料や文物を、テーマを設けて紹介する特別展示を毎年行っています。また、各図書館・室でも特色ある蔵書を活かして、展示を実施しています。

●平成24年度東京大学附属図書館特別展示

鷗外の書斎から - 生誕150年記念 森鷗外旧蔵書展 -
2012年10月18日～11月16日

●平成23年度東京大学附属図書館特別展示

総合図書館貴重書展 - 江戸 いきもの彩々 -
2011年10月28日～11月20日



人類學講義（坪井正五郎）

●総合図書館一般展示

タワーによきによき、東京大学 - 東京大学関係者はこんなタワーを建ててきた - (2012年7月～10月)
坪井正五郎と明治のヲタク的世界 (2011年7月～10月)
本郷界隈に住んだ文化人 - 東京大学ゆかりの人々 - (2010年7月～10月)
ひむがしの… - 万葉集1250年によせて - (2009年7月～10月)

附属図書館ホームページでは過去の特別展示・常設展示について、電子展示を行っています。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tenjikai/index.html>

主な文庫・コレクション Web上に公開されているものも多数あります。

	文庫名	内 容	数 量
総合図書館	鷗外文庫	森鷗外の旧蔵書。日本の歴史や文学などを中心に、伝記、江戸古地図のほか、ドイツ留学中に収集したと思われる洋書など。 http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/guide/coll/Ogai.html	18,800
	霞亭文庫	明治・大正期の小説家、渡辺霞亭が収集した江戸時代の小説類と演劇書。 http://kateibunko.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/katei/index_srch.html	1,851
	亀井文庫	旧津和野藩主の家柄である亀井茲明が19世紀末のドイツ留学中に収集した西洋美術関係の洋書。 http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/guide/coll/Kamei.html	1,958
	鶺軒文庫	医学部教授であった土肥慶蔵（鶺軒）旧蔵書の中の和漢医学書。 http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/guide/coll/Gakken.html	4,618
	洒竹文庫 竹冷文庫 知十文庫	明治から昭和にかけての俳人であった大野洒竹、角田竹冷、岡野知十が各々収集した連歌俳諧書。	6,577
	青洲文庫	甲州の素封家であった渡辺家の寿、信（青洲）、沢次郎の三代にわたる、主に漢籍・国文学関係書からなる旧蔵書。伊藤博文の筆による額あり。	25,000
	田中芳男文庫	日本博物学の草分けの1人、田中芳男の収集した博物学及び博覧会関係資料。	6,000
	南葵文庫	紀州徳川家の旧蔵書で、南葵文庫自体が様々な個人文庫の集積でもある。徳川最後の将軍慶喜の筆による額あり。	96,000
	英国書史関係集書	英国政府から寄贈された英国印刷史上の稀覯書。	182
	モース文庫	明治初期のお雇い外国人モース（Edward S.Morse）から贈られた日本関係及び自然科学関係の資料。	1,200
法	宮武外骨関係資料	明治新聞雑誌文庫の創始者、宮武外骨刊行の新聞・雑誌・絵葉書等。	
	吉野文庫	大正期の政治学者で法学部教授であった吉野作造の旧蔵書。	8,716
医	フルダイエル文庫	ドイツの解剖学者フルダイエル（Wilhelm von Waldeyer-Hartz）の旧蔵書。主に解剖学関係の著書・文献、動物学・人類学関係書など。	約2,000
人文	市河文庫	文学部教授であった市河三喜旧蔵の19世紀末～20世紀初頭の英語学・言語学関係論文。	約1,200
	ハーン文庫	市河三喜旧蔵の小泉八雲（Lafcadio Hearn）の著作・訳書・研究書及び雑誌記事等。	303
	本居文庫	本居宣長及びその子孫・門下の自筆本・写本。	3,534
経済	アダム・スミス文庫	アダム・スミス（Adam Smith）の旧蔵書。	312
	エンゲル文庫	ドイツの統計学者エンゲル（Ernst Engel）の旧蔵書。	1,124
総合文化	狩野文庫	旧制第一高等学校長であった狩野亨吉の日記・来翰など。	
	木谷文庫	演劇・浄瑠璃研究家木谷蓬吟旧蔵の幕末・明治の浄瑠璃関係史料。	228
情報学環	小野秀雄コレクション	前身である新聞研究所の実質的な創設者小野秀雄が収集したかわら版、新聞錦絵、号外など。 http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/archives/digital_archives/ono_collection/contents/index.html	1,144
東文研	大木文庫	北京在留の弁護士であった大木幹一より寄贈された中国法制関係資料。	3,168部
	雙紅堂文庫	書誌学者長澤規矩也旧蔵の明清時代の戯曲・小説類。 http://hong.ioc.u-tokyo.ac.jp/	3,000
	ダイバー・コレクション	ダイバー（Hans Daiber）収集のイスラム世界の伝統的文化全般に関わる写本コレクション。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html	367
社研	糸井文庫	東京職業紹介所長などを務めた糸井謹治の収集による日本労働事情関係資料。 http://library.iss.u-tokyo.ac.jp/collection/itoi.html	10,500
	極東軍事裁判記録	極東軍事裁判の公判、弁護関係資料。	454
	ドイツ労働総同盟（DGB）旧蔵文書	DGB旧蔵の1900年初頭から1970年代に至る資料。 http://library.iss.u-tokyo.ac.jp/collection/dgb.html	7,000
	島津家文書	平安時代より江戸時代に至る薩摩藩島津家伝来の文書群。国宝に指定。	約17,000
史料	宗家史料	対馬宗家の江戸藩邸に伝来した史料。	約2,900
	徳大寺家本	旧公爵徳大寺家伝来の公家史料。	約4,400
	益田家文書	石見の豪族益田家中世以来の史料。	約7,600



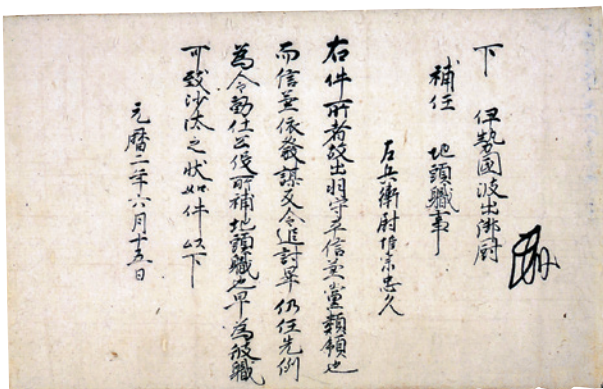
「ケルムスコット版 チョーサー著作集」
英国書史関係集書（総合図書館）



「東京汐留鉄道御開業祭礼図」 小野秀雄コレクション（情報学環・学際情報学図書館）



「青砥藤網摸稜案」／曲亭馬琴著
鷗外文庫（総合図書館）



「歴代龜鑑 源頼朝下文」島津家文書（史料編纂所）



アダム・スミス文庫（経済学図書館）



13世紀のアラビア語「哲学の導き」注解書の写本
ダイバーコレクション（東洋文化研究所）

沿革

1877 (明10) 4月	東京大学創設 (医・法・文学部)
10月	法・理・文三学部 (一ツ橋) 図書館の設置、図書館規則の制定
1881 (明14) 6月	東京大学職制の改正、同時に四学部図書館規則を「東京大学図書館規則」として統合
1886 (明19) 3月	「帝国大学令」公布、「東京大学図書館」を「帝国大学図書館」と改称
1892 (明25) 8月	図書館新築落成
1897 (明30) 6月	「帝国大学図書館」を「東京帝国大学附属図書館」と改称、「館長」職制制定
1899 (明32) 2月	「図書館商議会」設置、同規程制定
1918 (大7) 9月	「東京帝国大学附属図書館規則」改正。本館管理の下、部局、各教室・学科研究室にも 図書を備え付け
1923 (大12) 9月	関東大震災、附属図書館炎上全壊、蔵書喪失、国際連盟で復興援助の決議
1924 (大13) 6月	帝国大学附属図書館協議会創設
12月	ロックフェラーJr.より図書館再建資金400万円受贈
1928 (昭3) 12月	新図書館完成 (12月1日を開館記念日とする)
1950 (昭25) 3月	「図書館商議会」を「図書行政商議会」と改称
1961 (昭36) 4月	図書館に部課制実施
5月	岸本館長「附属図書館改善計画案」発表
9月	ロックフェラー財団より図書館機能近代化資金8,400万円受贈 (改装工事開始)
11月	全学総合目録の編成作業開始
1962 (昭37) 10月	図書館報「図書館の窓」創刊
1963 (昭38) 9月	「東京大学附属図書館基本規則」制定 (「本館」を「総合図書館」と改称し、附属図書館は、総合図書館と部局図書館からなる ことを規定)
1965 (昭40) 7月	総合図書館、国連の寄託図書館となる
1968 (昭43) 11月	東大紛争のため総合図書館閉鎖 (翌年2月まで)
1969 (昭44) 3月	外国雑誌一括購入業務の開始
1982 (昭57) 1月	裏田館長「東京大学総合図書館改善計画試案」発表 (1984年より改修工事着工)
1986 (昭61) 5月	附属図書館電算化システム稼働開始
6月	OPAC (利用者用オンライン目録) サービス開始
1987 (昭62) 4月	総合目録 (洋書) 遡及入力開始 (~1990.3)
4月	バックナンバーセンター設置
1988 (昭63) 4月	共同利用図書購入費の学内措置開始
1992 (平4) 4月	学術情報センターのNACSIS-ILLシステムに参加
1993 (平5) 1月	UTnet (学内LAN) によるOPACサービス開始 (インターネットへのOPAC公開)
1995 (平7) 9月	遡及入力10年計画開始 (第I期)
10月	WWWサーバによる図書館ホームページの開設
1996 (平8) 11月	東京大学学位論文論題データベースサービス開始
1997 (平9) 1月	附属図書館電子化事業開始 (霞亭文庫の電子化)
6月	本郷・駒場キャンパス図書館 (室) 間相互貸借のための集配サービス (キャンパスローン) 開始
1999 (平11) 4月	大型計算機センター、教育用計算機センター、附属図書館の一部を統合し、情報基盤 センター発足
10月	Webブラウザに対応したOPACシステム (WebOPAC) の公開
2000 (平12) 4月	電子ジャーナル導入試行実験開始
10月	総合図書館開架図書の分類変更開始 (2002年8月完了)
2001 (平13) 10月	Webリクエストサービスを開始
2002 (平14) 2月	多言語対応版OPACのサービス開始
10月	駒場図書館の開館
2004 (平16) 3月	「東京大学附属図書館基本規則」の新たな制定 (附属図書館は、総合図書館・駒場図書館・柏図書館・部局図書館からなることを規定 し、運営原則を「共働する一つのシステム」とすることを明記)
5月	全学資料購入集中処理システム暫定スタート (12月より本格運用)
2005 (平17) 2月	柏図書館正式開館・自然科学系雑誌バックナンバーセンター設置 (2004年5月より部分開館)
3月	e-DDSサービスの開始、ASKサービスの試行開始 (2006年8月より正式運用)
4月	キャンパス間返却サービス開始
10月	遡及入力10年計画第II期開始

2006 (平18)	4月 9月	東京大学学術機関リポジトリ (UT Repository) 公開 MyLibraryサービス開始
2007 (平19)	4月 11月	全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備開始 (第I期 平成23年度末まで) UT Article Search、UT Article Linkサービス開始
2008 (平20)	4月 10月 12月	全学学生用図書費の恒常化 全学資料購入集中処理システム (第2ステージ) 開始 総合図書館再建80周年記念式典、記念プレート除幕式、記念講演会開催
2009 (平21)	12月 12月	総合図書館棟ポーチ外灯復元記念披露及び点灯式 図書館間返送管理システム「楽返くん」が2009年度業務改善総長賞を受賞
2010 (平22)	5月	キャンパスローン (資料取り寄せ) サービスの対象を拡大し、学部学生も利用可能に
2011 (平23)	3月 3月 3月	東日本大震災により多数の図書が落下・破損し、多くの図書館・室が一時休館 MyOPACサービス開始 新図書館構想推進委員会が発足
2012 (平24)	4月	全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備 (第II期 平成27年度末まで)
2013 (平25)	3月	新図書館建設に向けた準備工事に着手

図書館風景



駒場図書館



柏図書館



法学部研究室図書室



農学生命科学図書館



東京大学附属図書館

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

TEL 03 (5841) 2612

URL:<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>

表紙解説

〔松乃栄〕(附属図書館蔵：東京大学五十年史資料の内)

東京大学のシンボルの一つである、いわゆる「赤門」は、文政10年(1827)、加賀藩13代藩主前田斉泰が徳川11代將軍家斉の第21女(38番目の子供)溶姫(15歳)を妻に迎えるときに建立された。表紙の大錦三枚続きの絵は、三代歌川国貞によるもので、溶姫の御輿入れの様子を描いたものである。

三代国貞は江戸後期最大の浮世絵師である初代国貞の弟子であり、この絵は明治22年(1889)に描いたものである。